



2023 サステナビリティレポート

株式会社ココラボ

●編集方針

[対象期間] 2022年3月1日～2023年2月28日

[対象事業所] 株式会社ココラボ本社および本社工場

[開示フレームワーク] IIRC 国際統合報告フレームワーク[※]

[排出原単位] Scope1 (ガソリン) : 2.322kg-CO₂/ℓ (環境省)

Scope2 (電気) : 0.00 t-CO₂/kWh (株) UPDATER)

[マネジメントシステム] 横浜型地域貢献企業認定制度

全印工連 CSR 認定制度

グリーンプリンティング認定制度

PISM 認定

[その他特記事項]

掲載内容には一部対象期間以後の実施分を含む場合があります。

[※] IIRC の指導原則、内容要素にできる限り準拠していますが満たしていない項目もあります。
財務情報開示は含みません。

2023 サステナビリティレポート

CONTENTS

2	01	トップメッセージ
4		ココラボ 価値創造プロセス
6		リスク・機会分析 2023 年版
8	02	事業ハイライト 1 / 温室効果ガスのサプライチェーン排出量削減
10		温室効果ガスのサプライチェーン排出量削減活動報告
11		コラム / 紙製クリアファイルカーボンオフセットのための試算
12	03	事業ハイライト 2 / キャリア教育を通じた次世代の育成とコミュニケーション
14		キャリア教育を通じた次世代の育成とコミュニケーション活動報告
15		ガバナンス・人的資本開発報告
16	04	事業ハイライト 3 / 持続可能性創造事業の拡大
18		SDGs / サステナビリティ取り組み支援
19		cocollabo ソーシャルえほん
20		サステナブルグッズ開発・製造・販売
21		クリエイティブプリンティング / クロスメディア / メディア・ユニバーサルデザイン
22		各種認定
23		重要課題 SDGs 対応表

01

トップメッセージ

社会の持続可能性を高めるために

移り変わる時代のニーズに応え、社会の持続可能性に貢献することをミッションとして新たなスタートを切りました。

新事業領域のさらなる発展にむけて

2022年9月に株式会社コロラボへと社名変更し、従来の印刷・クロスメディア事業は継続しながらも、サステナビリティ支援事業を新たな柱とする会社へと方向転換しました。当報告書の対象期間である2022年3月～2023年2月では、まだ十分な成果をあげるには至っていませんが、今後需要の増加が見込まれる市場において、当社の強みを発揮できるよう努力してまいります。

サステナビリティマネジメントを見直し

すべてのステークホルダーからの「ありがとう」を誇りとし、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様の持続可能な発展に、新しい価値の創造をもって応えるという理念のもと、社会のサステナビリティ課題に取り組む会社として再スタートを切りましたが、それに先立ち自社のサステナビリティマネジメントを見直すこととしました。

具体的には国際機関であるIIRCが発行する「国際統合報告フレームワーク」に基づいて、自社を取り巻くリスク・機会の分析

から、それに対する対策＝戦略を立案し、優先順位（マテリアリティ）を決定するという手順に沿ったものとしていますが、当社は非上場企業であるため、サステナビリティと財務情報との関連性を重視したシングルマテリアリティではなく、当社の活動がサプライチェーンを通じて、社会や地球環境にどのような影響を与えるかという視点を中心にレポートिंगすることを目的に、サステナビリティに関する様々な活動や測定方法を設計するようにしました。

これによって、当社を取引先として選定することが、お客様にとってどのような意味を持つのか、あるいは当社を連携先に選ぶことが、社会課題解決に取り組む行政機関やNPOにとってどのような意味を持つのかということが明確になるような報告書を作成するという目的が明確になりました。

Scope3 排出削減を通じた啓発活動

サプライチェーン全般を通じた排出量であるScope3排出量の測定を2021年度から試験的に開始し、対象カテゴリーは限定的是ではあるものの、今年度は年間を通して測定することができました。測定してみてわかったことは、排出量の大半がScope3

排出量であり、中でも原材料である「紙」の製造工程での排出量が多くを占めるということです。段ボール原紙などに比べ、上質紙やコート紙などの印刷用紙は古紙利用率が低く、用紙の製造工程での排出量が多くなっています。印刷会社から見ると Scope3 のカテゴリー 1 が突出して多くなる傾向にあり、製紙会社も含めたサプライチェーンをあげての対策が必要です。

Scope3 の実排出量の把握は他社のことでもあり非常な困難を伴いますが、協力会社に訪問しての環境・情報セキュリティの地道な啓発活動も継続しており、自社の排出削減にとどまらず、脱炭素の旗振り役としての使命も果たしていきたいと思っています。

Scope1 については 2027 年にゼロ達成の目標は変わっていませんが、現時点では再エネ電気の充電ステーションの選択肢が狭く実用的でないため、社内に充電ステーションを設置して対応する方法も含め、引き続き調査しています。

デジタル印刷への移行に伴い有機溶剤を含む産業廃棄物の排出量が大幅に減少しています。業界全体として脱炭素につながるかどうかは現時点では今後の検証結果を待つ以外にありませんが、ゼロエミッションという観点ではメリットが大きく、総合的にはデジタル印刷への移行は望ましいものと判断しています。

次世代のよき理解者、よき指導者として

以前より継続している子どもや若者へのキャリア教育支援。次世代の育成は企業の社会的責任であるとの信念のもとに継続してきましたが、この度見直したリスク・機会分析により、「若い世代の思考や選好傾向をアップデートする」という目的が加わり、教育プログラムに協力する意味がより鮮明になりました。

コロナ禍の影響により中学生の職業体験学習が“絶滅”して

しまったことは大変残念ですが、横浜市の独自プログラム「はまっ子未来カンパニープロジェクト」や、2022 年度の三省合意で定義が明確になった大学生のインターンシップはますます活発になっており、若い世代のよき理解者であることと、よき指導者であることの両立をはかるべく、社員一同努力しています。

新事業を新たな収益の柱に

新たな収益の柱として期待している①サステナビリティコンサルティング事業②ソーシャルえほん事業③サステナブルグッズ事業は、いずれも緒についたばかりですが、マーケティングや品質向上の努力により成長につなげていきたいと考えています。自社のサステナビリティの取り組みが直接事業に反映する分野でもありますので、自社の取り組みのさらなるブラッシュアップとあわせて推進していきます。



2024 年 2 月

株式会社ココラゴ

代表取締役社長 江森克治

早稲田大学商学部卒
全日本印刷工業組合連合会常務理事
神奈川県印刷工業組合理事長
横浜型地域貢献企業認定委員
全印工連 CSR 認定制度認定委員

ココラボ 価値創造プロセス

対話を通じて持続可能性に貢献することに

投入する資本



人的資本

進取の精神と不断的努力。当事者意識をもって他者に貢献する姿勢。



知的資本

印刷で培った情報加工力。持続可能性についての最新の知見。



財務資本

高収益型事業モデルへの転換。金融機関との連携。



製造資本

デジタル印刷設備と、自動化等に関するITノウハウ。



社会関係資本

地元行政・NPO・全印工連のネットワーク。



自然資本

持続可能な原材料。再生資源の活用。

サステナブルソリューションカンパニー

持続可能性創造事業

- サステナビリティ関連情報開示コンサルティング事業
- 社会課題解決型メディア事業
- サステナブルグッズ開発・販売事業

メディア・ソリューション事業

- 印刷事業（クリエイティブ・プリンティング）
- クロスメディア事業

持続的成長のための取り組み

- 業態変革の推進
- 共創による社会課題解決
- 脱炭素の取り組み
- DXによる生産性向上
- 従業員満足度向上
- 教育支援・次世代育成

経営理念

〈重要課題（マテリアリティ）〉

1. 印刷事業に依存しない事業ポートフォリオのバランス構築
2. 従来事業のサステナビリティ文脈での再構築
3. 持続可能性創造事業の拡大
4. 従業員への最新技術・知識の教育
5. 温室効果ガスのサプライチェーン排出量削減
6. 製造方法の研究やIT活用による生産性及び品質の向上
7. 「共創」によるビジネスを通じた社会課題解決
8. キャリア教育を通じた次世代の育成とコミュニケーション

よる価値創造と資本の充実による企業の成長

製品・サービス（アウトプット）

● 統合報告書・サステナビリティレポートの作成支援

セミナー開催や個別コンサルティングを通じて、統合報告書やサステナビリティレポートの作成、CSR・SDGsの取り組みや社内組織の立ち上げを支援し、投資家をはじめとするステークホルダーとの円滑なコミュニケーションを実現するなど、企業経営の持続可能性を高めるためのサポートをしています。

● cocollabo ソーシャルえほんを通じた社会課題の啓発

様々な社会課題をテーマにしたソーシャルえほんシリーズを行政、団体、企業など多様な主体に活用していただくことで、課題の存在を明らかにし、助け合える社会の創出を目指すとともに、行政事業の費用対効果の向上にも貢献します。

● サステナブルグッズでゴミにならないノベルティの提供

できるだけ“燃やさない”をテーマに、現実的にリサイクル可能な素材によるグッズの企画・製造・販売を実施。紙製クリアファイル、サステナブルカレンダーなどによる脱プラスチックをはじめ、ゴミの削減と温室効果ガスの削減に貢献します。

● 創業以来受け継いできた技術に基づく印刷事業

創業以来長年にわたり培ってきた印刷のノウハウを活かし、お客様が伝えたい想いや残したいメッセージを形にします。また、揮発性有機化合物をできるだけ使用しない印刷方式の採用によって、大気汚染、職場環境汚染、廃棄物の発生などの環境負荷を抑制した環境品質に優れた印刷プロダクトをご提供しています。

● 最適なメディアでのソリューションを提供

デジタル化の発展やニーズの多様化に伴い、Web やイベントなど、その時々で最適なメディアを活用したソリューションを提供します。

提供価値（アウトカム）

- サステナビリティ関連情報開示コンサルティング事業により企業のサステナビリティの取り組みを推進し、社会の持続可能性やレジリエンスに貢献。



- 社会課題を手軽に学べるツールである「ソーシャルえほん」の普及によって課題解決に向けた取り組みが拡大し、世界中の人々の健康で健やかな生活に貢献。



- サステナブルグッズの普及によるリサイクルの促進や CO₂ 削減と、サプライチェーンを巻き込んだ気候変動対策への貢献。



- 自動化技術等を活用することで生産性を向上し、短納期や安定した品質などの価値提供を実現。



リスク・機会分析 2023年版

リスク・機会シナリオ

紙媒体・印刷需要の減少

デジタルデバイスの普及に伴う情報コミュニケーション様式の変化により、紙媒体ならびに印刷の需要が減少、市場規模は1997年ピーク時の1/2以下になっている。さらにコロナ禍によって、リモートワークやオンライン会議などが定着したことで、今後も紙の印刷市場の縮小傾向は続くと考えられる。

人的資本の低下

若手社員の定着度が低く、従業員の平均年齢が高年齢化する傾向にある。パフォーマンス低下の懸念、また技術の継承や事業継続への悪影響が懸念される。

少子高齢化と労働人口の減少

少子化により若者人口が減少、就職における大企業志向、安定志向も根強く、人材確保が一層困難になる。

気候変動

気候変動により事業継続や日常生活が困難になる。また室温調整等の費用が増大する。化石燃料依存の長期化は、エネルギーコストの上昇やエネルギー供給の不安定要因となる。

品質要求の高度化

品質ニーズが多様化する一方で、QCDに対する品質要求はますます高度化していく。

サステナビリティへの関心の高まり

気候変動による異常気象や資源の高騰、ハラスメントなどの人権侵害が顕在化することにより、人々のサステナビリティへの関心が高まる。

ビジネス環境や働き方に対する意識の変化

終身雇用や大企業の安定神話が崩壊していく中で、新しい仕事や働き方を始めている層が登場している。また行政運営や従来型ビジネスモデルの行き詰まりを受けて、「共創」など地域での新たなビジネス形態が模索され始めている。

対策・戦略

事業ポートフォリオを見直し、段階的に印刷事業への依存度を下げていく。社会課題解決型メディア事業やサステナブル製品事業、サステナビリティ関連コンサルティング事業といった、従来の印刷とは異なる事業の拡大により事業ポートフォリオのバランスを変え、印刷事業の売上が減少しても経営基盤を維持できる体制の構築を進める。

従業員に対して社内外でのセミナー受講を促進。特にベテラン従業員には、技術や知識の拡充を図るべく、デジタル技術やマーケティング等の研修を中心にリスキリングを推進し、人的資本の充実を図る。

採用力を強化するため、セミナー受講などによって採用ノウハウを強化するほか、インターンシップや職業体験等、キャリア教育プログラムの積極的な実施により、若い年代の思考や選好傾向を常にアップデートしてニーズの把握に努めるほか、若者との接点を確保する。

事業活動における Scope1～3の温室効果ガス排出を削減するとともに、エネルギー消費の少ない機器の導入など、省エネを推進する。将来的にはマイクログリッドによるエネルギー自給を目指す。

最適な製造方法の組合せの研究や、協力会社の開拓を進めるとともに、IT活用によってコミュニケーション密度を高め、生産性と品質管理水準の向上に努める。

自社のサステナビリティに関する取り組みの広報を充実させると共に、従来の事業領域をサステナビリティを切り口に再構築して、社会課題解決型メディア事業、サステナブル製品事業、サステナビリティ関連コンサルティング事業などによってビジネスチャンスを生み出す。

「共創」や地域ビジネスに関わる主体との関係を構築し、地域での新しい動きをキャッチアップするとともに、それらの中でのビジネスチャンスを模索する。

マテリアリティ

- ・印刷事業に依存しない事業ポートフォリオのバランス構築
- ・持続可能性創造事業の拡大

- ・従業員への最新技術・知識の教育

- ・キャリア教育を通じた次世代の育成とコミュニケーション

- ・温室効果ガスのサプライチェーン排出量削減

- ・製造方法の研究やIT活用による生産性及び品質の向上

- ・従来事業のサステナビリティ文脈での再構築
- ・持続可能性創造事業の拡大

- ・「共創」によるビジネスを通じた社会課題解決

2022年

需要量

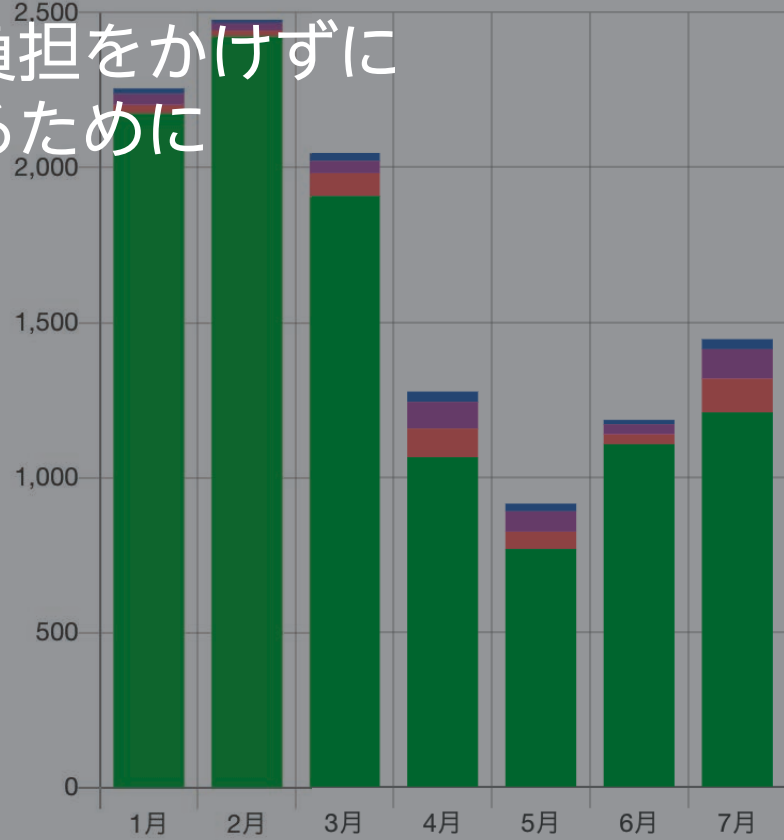
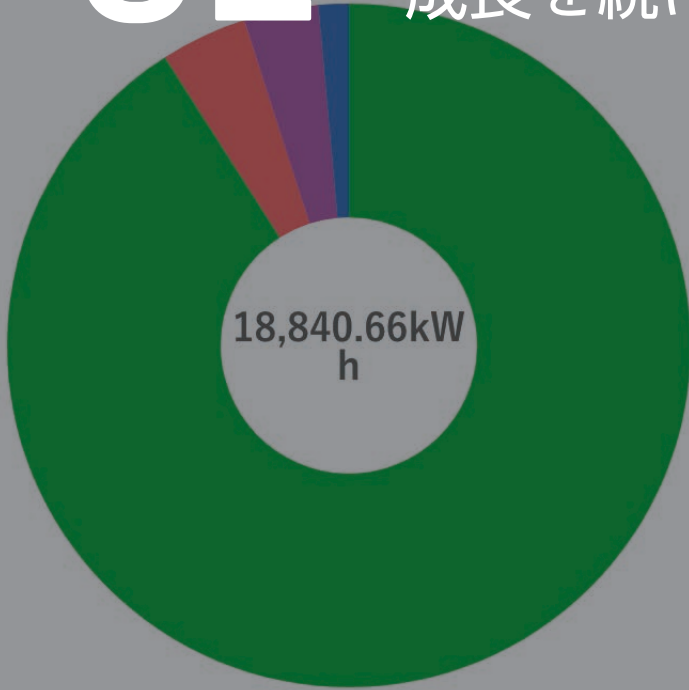
18,840.66kWh

温室効果ガスのサプライチェーン排出量削減

2022年需要量

02

地球環境に負担をかけずに
成長を続けるために



風力 太陽光 バイオマス 水力 地熱

需要場所グループ一覧

8 ● ココラボ ▶

需要場

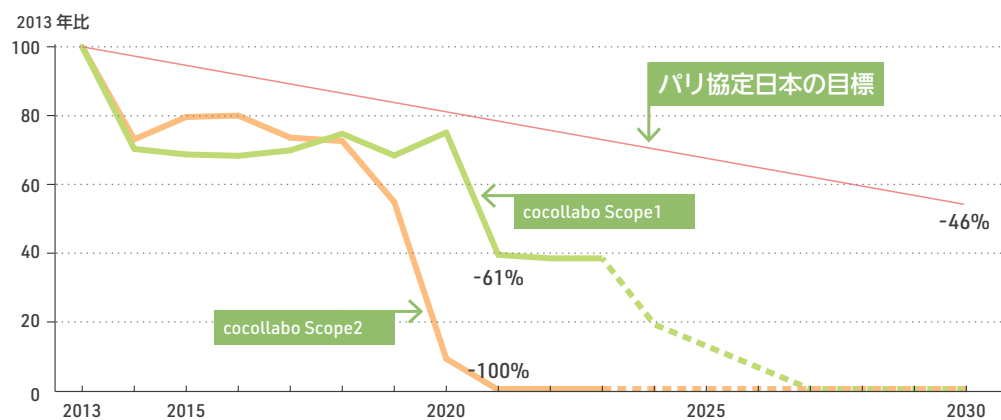
● ココラボ_本社1

CO₂"ゼロ"へ

2021年度に Scope2 排出量 "ゼロ" を達成しました。

2027年までに Scope1・Scope2 において排出量 "ゼロ" を目標に取り組んでいます。2021年度に電力の再エネ利用による Scope2 排出量 "ゼロ" を達成し、Scope1 については電気自動車への供給電源について現在検討を行っています。

Scope1・Scope2 排出量の推移と計画



温室効果ガスのサプライチェーン排出量削減活動報告 (2022.3.1 ~ 2023.2.28)

一般社団法人日本印刷産業連合会の「グリーンプリンティング (GP) 認定基準」に基づき、2007 年から環境マネジメントシステムを構築・運用し、温室効果ガスや廃棄物の削減、環境製品の開発・提案などを行なっていますが、近年は CO₂ 削減のための活動に軸足を置いて取り組んでいます。

印刷方式の変更により有機溶剤をほとんど使用しなくなったことから、今年度より集計対象から除外しました。昨年度から試験的に始めた Scope3 排出量の測定は、カテゴリ 1 のうち自社製造分の原材料を対象にして測定しています。Scope3 の実排出量の把握が困難なため、来年度からは排出係数を活用して、外部委託分も含めた Scope3 の測定範囲の拡大に努めて参ります。

近年力を入れて取り組んでいるサプライチェーンの啓発を兼ねた調査事業では、GP 認定取得企業が 1 社増加、適合率 50% 以上の企業が 1 社増加と、少しずつではありますが環境保護に取り組む会社が増えていきます。しかしながら適合率 80% 以上かつ GP 取得の「A ランク」企業は 40 社中 1 社と、サプライチェーン全体で付加価値創出するには至っていません。引き続き啓発活動を続けて参ります。

2022 年度 CO₂ および一般廃棄物排出量・リサイクル量

排出

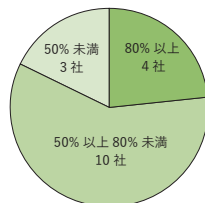
項目		排出量	前年比
CO ₂	Scope1	4.3t	100%
	Scope2	0t	—
	Scope3	22.4t (参考値)	—
一般廃棄物		765ℓ	106%

リサイクル

項目	排出量	前年比
紙	2.40t	35%

協会社調査結果

当社要求事項に対する適合率 (環境)



調査期間：2023 年 2 月 8 日
 ~ 2 月 28 日
 アンケート回答数：17/n40
 (回答率 43%)
 GP 認定取得企業：5 社

2023年2月28日

環境への取組に関するアンケートご記入のお願い

株式会社ココラボ
 環境保護推進責任者 竹尻正一

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素はご多忙と察いたしますが、先般お申し込みいただきましたご協力のほど、誠にありがとうございます。
 さて、天候気候の減少や経済変動などにより、サプライチェーンへの社会からの要請がますます高まっております。
 当社におきましても、すべての製造工程においてサプライチェーン全体での環境配慮を目標とすべく、協力会社様にもご協力
 いただきたく願っております。つきましては協力会社様の取組み状況をお伺いしたく、ご多忙中、誠に恐縮ではございますが、
 下記アンケートのご回答いただけますようお願い申し上げます。

敬具

貴社名： _____ ご担当氏名： _____ ご記入日： _____ 月 _____ 日 _____

①グリーンプリンティング制度認定を取得している
 取得している 取得していない

②取組の現状についてお聞かせください
 1. 貴社の環境方針 (CO2排出量など) を把握している。
 2. 有害物質を適切な方法で処分している。
 3. 事務所で発生した紙くずや消耗品はリサイクルしている。
 4. 運搬車両の環境負荷低減に配慮している。
 5. 化学物質のリスクアセスメントを実施している。
 6. 消費電力の削減に取り組んでいる。
 7. 騒音・振動の抑制に取り組んでいる。
 8. 環境配慮型の商品を積極的に推奨している。
 9. NonVocインキを使用している。
 10. 環境配慮型の印刷機・製本加工機を導入している。
 11. 環境に関する地域での活動を実施している。
 12. 環境関連認証を取得している。

認定名 (_____)
 環境保護の取組み (質問11の地域活動含む) がございましたらご記入願います

③今後、弊社で協力会社様向け説明会やセミナーを開催する場合は、参加したいと思われるテーマをチェックしてください。

1. グリーンプリンティングセミナー (要求事項の解説等) 参加したい
 2. CSR・全社工運CSR認定制度セミナー (CSR実践についての解説等)
 3. カーボンニュートラル実践セミナー
 4. 地域連携実践セミナー (地域、NPO、学校などの連携の解説等)
 5. SDGs実践セミナー

以上、アンケート記入のご協力をありがとうございました。環境やCSRに関するご質問等ございましたら、遠慮なくご連絡下さい。
 お手数をおかけしますが、2月28日(火)までのご返信 (メール・ファクス) をお願い申し上げます。

Mail : takemi@cocolabo.jp Fax : 050-3730-6273

1

紙製クリアファイルカーボンオフセットのための試算

column

世界的にサステナビリティへの関心が高まる中、特にサプライチェーンという枠組みで環境負荷低減を考えるという取り組みが増えてきています。

ココラボではサステナビリティの取り組みにつながるソリューションツールの一つとして、紙製クリアファイルを展開しており、お客様の脱プラスチックやリサイクル促進による廃棄物削減に貢献してきましたが、サプライチェーン排出量の削減ニーズにも応えるために、カーボンオフセットを活用した実質的な「CO₂ 排出量ゼロ」商品の実現を目指して研究を進めています。

当社では様々な CO₂ 削減策を講じていますが、モノを生産している以上原材料の製造段階で排出される CO₂ もありますし、商品ごとの排出量を完全にゼロにすることはできません。そこで、どうしても発生してしまう排出分をカーボンオフセットすることで、“実質的な” 排出量ゼロを目指すことになります。

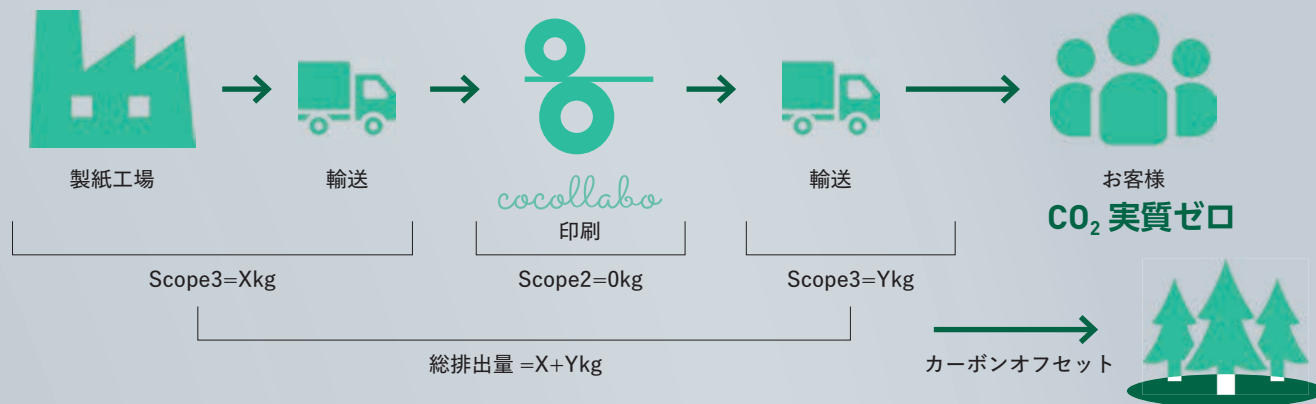
オフセットするためには、現状の CO₂ 排出量がどの程度であ

るかの算定が必要となりますので、現在紙製クリアファイルの原材料である紙の製造から、印刷・加工してお客様先にお届けするまでの輸送も勘案した全過程での CO₂ 排出量の算定を進めています。

排出量算定にあたっては、Scope1～3の全区分での紙製クリアファイルに係る該当項目を抽出し、各項目ごとに排出量を算定した後、それらを合算します。ここでも課題になるのは Scope 3 の排出量です。理想的には実際の排出量を測定するのが最も正確ですが、紙の製造メーカーや協力会社へのヒアリングですべての排出量を明らかにすることは難しく、追跡出来ないものについては環境省から示されている排出原単位を活用し、購入金額ベースでの排出量算定を進めています。

このようにして紙製クリアファイル1枚の製造にかかる CO₂ 排出量を算定し、その排出分をカーボンオフセットすることで、「CO₂ 排出量実質ゼロ」商品の実現を目指しています。近日リリースを予定していますので、どうぞご期待ください。

カーボンオフセットイメージ



キャリア教育を通じた次世代の育成とコミュニケーション

03

持続可能な社会を次世代につなぐ
時代の当事者であるために



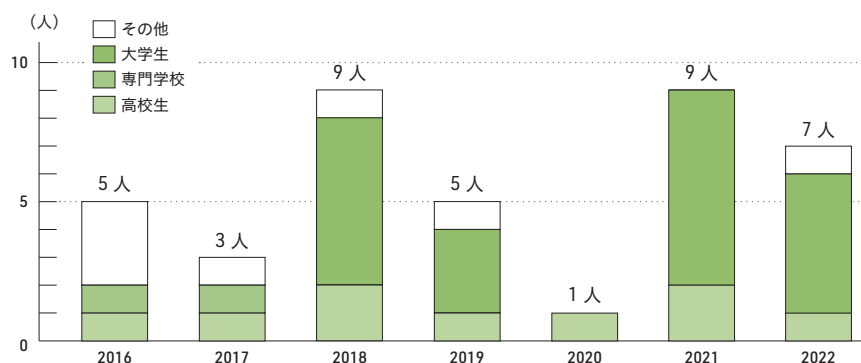
57名

インターンシップ受入数が累計57名になりました。

※ 2011年からの累計

「働くとは？」を学生に問う、採用を前提としないインターンシップを2011年から継続し、累計で57名の若者たちにキャリアを考える機会を提供してきました。社会人になるための準備の場を提供しつつ、若い世代の思考や選好傾向をキャッチアップして、自社の採用活動にも役立てていきます。

インターンシップ受入の推移



キャリア教育を通じた次世代の育成とコミュニケーション活動報告 (2022.3.1～2023.2.28)

若年人口の減少および就職における大企業志向により、中小企業の人材採用は苦戦が続くことが懸念され、従来の採用活動を見直しアップデート必須と考えています。そのために必要な若年者の考え方や選好傾向を知るためにも、長年社会貢献の一環として継続している職業講話やインターンシップを活用し、たくさんの学生と接点を持ち、コミュニケーションを図りながらニーズの把握に努めています。

1年間のインターンシップ終了後に実施した社内調査では、80%がインターンシップを通じて若者の考え方や趣向などを学ぶことができたと回答。さらに長時間インターン生と関わった人ほど、若者への理解が促進されるという相関関係を見出すことができ、限られた期間とはいえ、できるだけ多くの時間を一緒に過ごすことが効果的であることがわかりました。

[子どものキャリア教育支援]

・ 講義・職業講話・交流イベント等

- ・ 横浜市立横浜総合高等学校
キャリアデザイン授業（6月）
- ・ 篠原西小学校
サンワテクニカルパートナーズ株式会社との協働事業による授業（4年生）「SDGsの啓発」（7月）
- ・ 篠原小学校
3年生キャリア講話（11月）
- ・ 早稲田大学
OB寄附講座「経営戦略としてのCSR」（11月）
- ・ 緑が丘中学校
3年生キャリア講話（12月）
- ・ 川島小学校
4年生「農家レシピ集」のアドバイス（12月）
※オンライン開催

・ はまっ子未来カンパニープロジェクト

横浜市立藤が丘小学校（FSC～町のお店の魅力を伝えよう～）

[寄付・協賛]

- ・ 認定NPO法人エンパワメントかながわ
母校にCAPを贈ろうプロジェクト〈寄付〉



2022年7月横浜市立大口台小学校3年生を対象に実施したCAPプログラム

ガバナンス・人的資本開発報告 (2022.3.1 ~ 2023.2.28)

[コンプライアンス]

法令違反、行政指導等：0件

[お客様からのご意見・苦情等] (前年比)

仕様・品質に関すること : 2件 (25%)
 印刷物の内容に関すること : 0件 (---)
 金額に関すること : 0件 (---)
 情報セキュリティに関すること : 0件 (---)
 環境に関すること : 0件 (---)
 サービス全般に関すること : 0件 (---)

[情報セキュリティ不適合事案] (前年比)

不適合 : 1件 (-1件)
 重大ヒヤリハット : 0件 (±0件)
 ヒヤリハット : 2件 (+2件)
 外部要因不適合 : 0件

[ワークライフバランス]

	正社員			フレキシブル社員		
	目標	実績	昨年比	目標	実績	昨年比
時間外勤務 (月平均)	10h	1.3h	-3.8h	---	---	----
有給休暇取得	60.0%	81.0%	270%	---	---	---

[社員教育]

セミナー受講：124.7時間 (前年比 171%)
 情報セキュリティ教育：理解度調査平均 97.5点 (115%)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け予想を超えて加速したデジタル化。メタバースなどコミュニケーションに関する新しい技術がより身近なものになる近未来を見据えて、最新の技術や知識を習得するため、2022年からは意識的に新技術に関するセミナー情報を従業員に提供しています。社内調査から、セミナー受講により「会社からの情報提供や受講したセミナー等によって、能力向上の自覚が促されたか」の問いに100%が同意、「新しい知識が身に付いた」との回答も100%で、効果を実感している様子がうかがえます。

セミナー受講等以外にも、半期ごとの人事面談や、節目の年次でのセルフキャリアドックも導入し、会社として身に付けて欲しい技術や本人の思い描く姿の共有、これからの自身のキャリアを考える機会づくりなどに努めています。将来的にはリスキリングやリカレントにもつなげ、ベテラン社員のパフォーマンスの低下を予防しながら、新規の事業開発へとつなげていきたいと考えています。

持続可能性創造事業の拡大

04

新しい価値を創造し 持続可能性を高めるために

海を守るファイル。

プラスチックに貢献する“紙製クリアファイル”



記念品として

ノベルティとして

広報ツールとして

- 脱プラスチックに貢献
- 製造元だからできるこだわりの品質
- 機能性に優れた適度なハリと厚み
- 選べる4種類の質感
- 紙だからできる自由なデザイン

ます。

SDGの広報等に
ります。



4種類から
選べます!



製造・販売元
株式会社ココラボ
横浜市神奈川区大口神町 108
<https://cocollabo.jp>

☎ 045-431-6611 cocolla



REHOSHANA
PLASTIC

株式会社ココラボ

ココラボの紙製クリアファイル

刻々と変化する現代社会。特にメディアや情報コミュニケーションの世界は技術革新のスピードが早く、市場では常に新しいニーズが生まれています。ココラボでは社会のニーズの変化を敏感に捉え、会社の理念でもある新しい価値の創造に向けて事業開発に取り組んでいます。

cocollabo の新しい事業領域

SDGs/ サステナビリティ 取り組み支援

企業のサステナビリティの取り組みをスタートから報告書作成まで一貫してサポート。

- ・サステナビリティ体制構築支援
 - ・SDGs/ サステナビリティ研修
 - ・統合報告書作成支援
- など



cocollabo ソーシャルえほん

多様化する社会課題を幅広い年代の人々に知ってもらい、考え、対話するきっかけに。

- ・メンタルヘルス啓発冊子
 - ・自殺予防啓発冊子
 - ・認知症啓発冊子
 - ・再生可能エネルギー啓発冊子
- など



サステナブルグッズ 開発・製造・販売

サステナビリティの導入を容易に。なおかつ根拠のある環境性能にこだわったノベルティ・グッズ。

- ・紙製クリアファイル
 - ・オール紙製卓上カレンダー
 - ・サーキュラーエコノミー石けん
- など



SDGs/ サステナビリティ取り組み支援

東証プライム上場企業を中心に、投資家や証券取引所、金融機関などからサステナビリティ関連情報開示の要請を受けている企業が増えています。また中小企業でも経営戦略として、サステナビリティの取り組みを付加価値創造の一環と位置付ける企業が出てきています。

しかし多くの企業がその重要性・必要性を認識しているにも関わらず、サステナビリティの取り組みを実践に移せていない、もしくは思い通りの成果が出ていないというケースがまだまだ多いのも現実です。

大きな理由として挙げられるのが、サステナビリティという新しい枠組みに組織を適応させることに想像以上に時間がかかるということではないでしょうか。

現代の経営に求められるサステナビリティを核としたマネジメントシステムの構築から報告書等による情報開示の一連の流れは、弊社が従来から取り組み試行錯誤を繰り返しながらノウハウを蓄積してきた分野です。このノウハウに基づき、これからサステナビリティの取り組みをスタートしたいという企業の体制構築から、具体的な取り組みに対するご支援、そして国際基準を満たす統合報告書の作成支援に至るまで、企業のサステナビリティの取り組みとして求められているすべてのプロセスを幅広く支援しています。

[サステナビリティ体制構築支援]

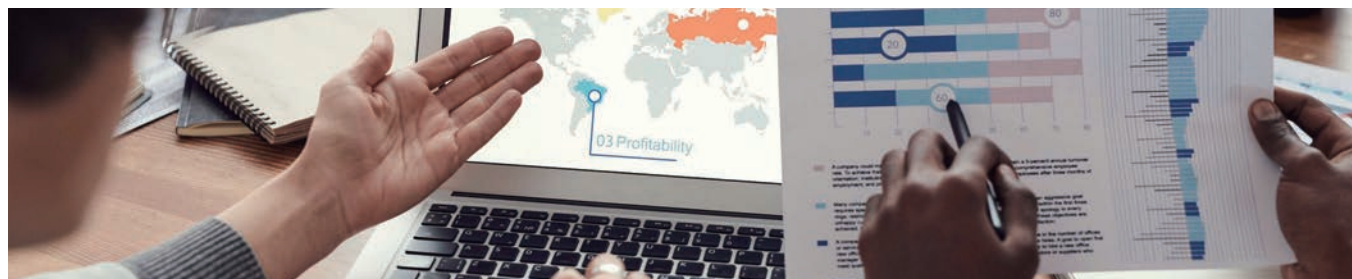
外部環境や内部環境から導出されるリスク・機会分析等に基づき、企業としての重要課題（マテリアリティ）は何かを洗い出し、戦略的にサステナビリティに取り組むために必要な体制構築を支援します。

[SDGs/ サステナビリティ研修]

社内から理解と協力を得られるように、従業員や場合によっては経営トップに向けたSDGs/ サステナビリティ研修を行います。様々な切り口からサステナビリティ経営の重要性を理解していただける研修メニューをご提供します。業種や職種に応じた研修内容のカスタマイズも承ります。

[統合報告書作成支援]

国際フレームワーク等の要件を満たしつつ、自社の取り組みのストーリーや自社らしさもはっきり伝えることができるような統合報告書の作成を支援します。「統合」の意味を踏まえ、企業の持続可能性を多様なステークホルダーから評価される報告書作成を目指します。



cocollabo ソーシャルえほん

価値観の多様化が進む現代社会において、社会課題も同様に複雑多様化してきています。そしてそれらの課題の中には、その実態はもとより課題の存在すらよく知られていないものも数多く存在しています。複雑多様な社会課題を少しでも解決に近づけるための第一歩として大切なのが、より多くの人々がその課題について認識し、知ることです。

cocollabo ソーシャルえほんは、そんな多種多様な社会課題について学ぶことができるツールです。ポップなイラストで大人から子どもまで年代を問わず親しみやすく、世代を超えて社会課題について考え、対話するきっかけにできるようデザインしています。どのテーマに関しても、ココラボが公的機関や専門家などに取材し、確かな根拠に基づいてシナリオ作りをしています。

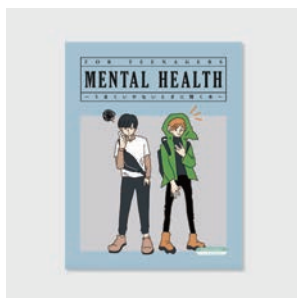
cocollabo ソーシャルえほんは、デジタルメディアでの配布に

も対応していますが、紙メディアでの配布を強くおすすめしています。人は関心のない事柄をあえてネットで調べたりはしません。いわゆる「プル型メディア」としてデータ化されてネット上にアップされた情報は、まだ社会課題に気づいていない人にはなかなか届きにくいものです。

一方、紙メディアはその社会問題に関心があるかないかに関わらず、一律に配布することができます。それまで関心のなかった人に興味喚起するという意味では、紙メディアの「偶然性」がプラスに作用します。cocollabo ソーシャルえほんがあえて紙とデジタルを併用しているのは、紙メディアの「偶然性」によって、私たちが普段意識しづらい社会問題をひとりでも多くの人に気付いてもらい、子どもから大人まで、家族や友人との「対話」のきっかけにしてほしい、SDGs や社会が抱える難題について考えるきっかけにしてほしいという思いがあるからです。

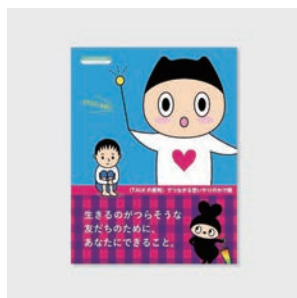
MENTAL HEALTH

～うまくいかないときに
開く本～



メンタル不調の低年齢化に対応したティーンエイジャー向けメンタルセルフケアブック

生きるのがつらそうな
友だちのために、あなたに
できること



自殺を思い止まってもらうために周囲の人にできること「TALKの原則」を解説

認知症を知ろう
～7つのふれあい

コミュニケーション編～



高齢化でますます身近になる認知症の方との接し方を7つの原則で紹介

再エネってなに？



脱炭素の切り札としての期待される「再エネ」について楽しく学べる児童向け絵本

サステナブルグッズ開発・製造・販売

不特定多数の方に向けて配布するノベルティを中心に、身近にあるアイテムをよりサステナブルにすることを旨とした製品開発・製造・販売を行なっています。ちょっとしたサステナビリティの取り組みとしてはじめやすいものでありながら、環境配慮はしっかり実現できるような素材、性能にこだわった製品展開をしています。

サステナブルグッズとして展開するにあたって、ココラボは特に3つのポイントを重視しています。

ひとつ目が、「環境負荷の少ない素材」です。近年問題になっているプラスチックごみによる海洋汚染など、廃棄物の流出による環境汚染は世界中で大きな問題となっています。特に不特定多数の方に配布する場合には、廃棄まで追跡することが難しいため、そもそも環境負荷が少ない素材を使用することで、環境汚染の抑制に貢献することを目指しています。

ふたつ目が、「リサイクル可能な素材」であることです。製品が役目を終えた後も、リサイクル可能な素材であれば再び原材料として次の製品に生まれ変わることができますが、ゴミとして燃やされてしまえばCO₂の排出源になってしまいます。また処分の方法が簡単で誰でも適切に処分ができるということもリサイクルの促進には重要であると考え、できるだけ一般的な方法で処分できるような製品開発を目指しています。

最後に、できるだけCO₂を排出しないことです。製造工程での排出量を抑えることはもちろん、原材料の産出から輸送にいたるまで、サプライチェーン全体での排出量の測定・管理の体制構築も進めています。

今後の展開としては、製品ラインアップのバリエーションをより広げていくことにより、あらゆるシーンで、より多くの方にサステナブルグッズを活用していただけることを目指しています。



[紙製クリアファイル]

イベントでのノベルティや、営業・説明会などでの資料入れとしておすすめの紙素材のクリアファイルです。透ける素材や高品質・高耐久な素材、コスパ重視な素材など、ご利用シーンに合わせて選べる全5タイプをラインアップしています。



[サステナブルカレンダー]

プラスチックや金属のリングなど、紙以外の素材を一切廃したオール紙製の卓上カレンダーです。使い終わったらまとめて古紙として処分できます。ノベルティとして配布することの多いカレンダーだからこそ、誰でも簡単かつ適切に処分できることを重視しました。

クリエイティブプリンティング／クロスメディア／メディア・ユニバーサルデザイン

[クリエイティブプリンティング]

創業以来長年にわたり培ってきた印刷のノウハウを活かし、お客様が伝えたい想いや残したいメッセージを印刷物として実現します。

「写真の色をこうしてほしい」「紙の質感はこうしたい」「こういうイメージを伝えたい」など、思い描くニュアンスはあっても、それを言葉で伝えるのは難しいものです。

その想いの本質を汲み取り、どんなメッセージであるべきか、どんな色表現であるべきか、どんな加工であるべきか…など、長年の経験があるからこそできる“想いの翻訳”ノウハウで、お客様の理想の印刷物を実現します。

[クロスメディア]

印刷物というメディアを作り出す経験から獲得した、人と人をつなぐコミュニケーションのノウハウ。発信する側も、受け取る側も同じ人間なら、手段は印刷でなくともその本質は変わりません。このノウハウを活かし、印刷物にこだわらない、リアルとバーチャルを超えたメディア・コミュニケーションを提供します。

Web を通じたデジタル空間でのコミュニケーションから、リアルでのイベントブースのプロデュースまでマルチに対応。お客様の目的に合わせた最適な組み合わせでコミュニケーションを実現します。



ジャパンプロードキャストソリューションズ株式会社

[メディア・ユニバーサルデザイン]

メディア・ユニバーサルデザイン (Media Universal Design /MUD) とは、障害の有無や年齢、国籍、色の感じ方などにかかわらず、できるだけ多くの人にとって情報が伝わりやすいようにするための配慮技法です。シャンプーのボトルやエレベーターなど、障害の有無に関わらず多くの人にとって利用しやすいユニバーサルデザインを、情報伝達の分野に当てはめたものが MUD です。

視覚障害、聴覚障害、色覚異常、高齢者、子ども、外国人…etc、健常者では気付かないような部分が障壁となって、情報取得に困難が生じるケースがあり、情報のユニバーサルデザイン化 = MUD 化が求められるようになってきています。

2024 年 4 月には改正障害者差別解消法の施行で、事業者の障害者への合理的配慮が義務化されることになっており、より注目が高まっていくと予想されます。MUD アドバイザーの資格保有者を抱える弊社としても、MUD の認知を少しでも広め、印刷物をはじめ各種メディアに取り入れていただけるよう取り組んでまいります。

MUD の例

製品に含まれるアレルギー物質 (28 品目中)
卵、乳、小麦、落花生、鶏肉

漢字が多く子どもや外国人にはわかりづらい

MUD

製品に含まれるアレルギー物質 (28 品目中)
Following allergens are contained. (out of 28 designated allergens)

				
卵 Egg	乳 Milk	小麦 Wheat	落花生 Peanut	鶏肉 Chicken

アイコン化すれば漢字が読めなくてもわかる。大人でもアイコンの方が一目でわかりやすい (=できるだけ多くの人が利用しやすい)

各種認定



E3PA 環境保護印刷（クリオネマーク） 認定

2006年2月 認定
<http://www.e3pa.com/>



グリーンプリンティング工場 認定

2007年6月 認定 2022年6月 更新
<http://www.jfpi.or.jp/greenprinting/index.html>



PISM 印刷業情報セキュリティマネジメントシステム 認定

2013年3月 認定 2017年3月 更新
http://kanagawapia.or.jp/LEGACY_SITE/pism.html



横浜型地域貢献企業 認定

2009年3月 認定 2019年3月 更新・プレミアム企業表彰・10年表彰
https://www.idec.or.jp/business/csr/chiiki_kouken.html



全印工連 CSR スリースター 認定

2021年6月 認定
http://www.aj-pia.or.jp/csr_main/



よこはまグッドバランス賞

2015～2022年度 認定 2017年度 ブロンズ認定 2022年度 5回継続賞
<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/danjo/hyoshou/>



重要課題 SDGs 対応表

No.	重要課題 (マテリアリティ)	SDGs ゴール			SDGs ターゲット	取り組み内容
1	印刷事業に依存しない事業ポートフォリオのバランス構築				8.2	2027年までに新規事業領域の売上構成比60%達成
2	従来事業のサステナビリティ文脈での再構築				8.5	多様な人材の活用による事業の持続可能性の強化
3	持続可能性創造事業の拡大				4.7、12.5、14.1	4.7：国や行政の施策を強化する社会課題解決型メディアの開発を通じて社会課題について広く啓発し、より多くの人が健全な生活を送れる社会の実現に貢献 12.5：リユース、リサイクル可能素材の活用 14.1：プラスチック代替品の開発
4	従業員への最新技術・知識の教育				4.4、8.2	4.4：従業員教育の充実と従業員満足度の向上 8.2：一人あたり付加価値額の成長率
5	温室効果ガスのサプライチェーン排出量削減				7.2、9.4、13.2	7.2：再生可能エネルギー比率100%（達成済） 9.4：Scope3 排出量の削減 13.2：2027年までにScope1・2 排出量ゼロ
6	製造方法の研究やIT活用による生産性及び品質の向上				9.2	DX等の推進による一人あたり付加価値額の成長率向上
7	「共創」によるビジネスを通じた社会課題解決				17.17	共創手法による地域課題解決に多くの資金投下を促進
8	キャリア教育を通じた次世代の育成とコミュニケーション				4.4	インターン等受入人数の増加（従業員一人あたり）



cocollabo magazine 好評更新中!
<https://cocollabo.jp/magazine>

2023 サステナビリティ 報告書

発行：株式会社ココラボ

発行日：2024年2月29日

〒221-0003 横浜市神奈川区大口仲町108

TEL.045-431-6611 FAX.050-3730-6273

<https://cocollabo.jp>



<https://cocollabo.jp>